

栃木県学校農業クラブ連盟「意見文コンクール」 最優秀賞受賞作品紹介

栃木県学校農業クラブ連盟「意見文コンクール」において、最優秀賞を受賞された作品の要旨を紹介します。

意見文コンクールは、「生産・流通・経営」「開発・保全・創造」「ヒューマンサービス」の3分野で行われ、身近な問題や将来の抱負・意見を提言しています。

分類Ⅰ類「生産・流通・経営」 最優秀賞（要旨）

栃木県立鹿沼南高等学校
食料生産科3年

なかぬま まゆ
中沼 真結

私の夢



私には夢があります。それは、和牛の繁殖農家になることです。

幼い頃から動物に囲まれて育ち、動物が大好きだったことから、中学校の職業体験「マイチャレンジ」でも酪農家を選択しました。そこで、大きくて優しい目をした牛に魅了され、農家出身ではありませんが「牛について学びたい」と鹿沼南高校へ進学、部活動も通称牛部といわれる畜産同好会に入部し、牛と触れ合う高校生活を送りました。

1年生の時、初めて子牛が生まれる瞬間を見て、とても感動しました。この体験が私の夢の契機となりました。その後は、多くの知識を身に付けようと、人工授精、出産、繁殖と肥育のライフサイクル、飼料の種類、飼育方法など様々なことを学習し、除糞、ブラッシング、体重測定などの実習は、牛のために効率性を考えながら臨みました。

2年生の時は、離れた場所から牛の様子を確認できる「養牛カメラ」が学校の牛舎に設置されたことで、効率良く且つ安全な牛の飼養管理について学ぶことができました。また、和牛甲子園に出場し、遺伝子検査を活用するゲノミックス育種価など鹿沼南高校独自の取り組みを発表させていただけたことや、枝肉を見た審査員の方から飼育のアドバイスや課題を教えていただけたことも貴重な経験となりました。さらに、インターンシップでお世話になった牧場のオーナーがおっしゃっていた「畜産は、命を扱う仕事だから、日々命に向き合い、大切に育ててあげなければならない。」という言葉が、今も心に強く残っています。

鹿沼南高校での学び・体験を経て、自分の夢に一步近づくことができたと感じています。

今後は、栃木県農業大学校の畜産経営学科に進学し、牛の身体の構造や病気などを学習して、より深い知識や技術を身に付けた上で、将来は家畜人工授精師としてＩＣＴやＩｏＴ等を活用した自分の牧場を経営したいと思います。

分類Ⅱ類「開発・保全・創造」 最優秀賞（要旨）

栃木県立宇都宮白楊高等学校　わたなべ さくら
生物工学科3年　渡邊 咲良



私が守りたいもの

あなたは、日本で絶滅の危機にある生物種をいくつ知っていますか。

絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト「レッドリスト」や、多くのメディアでも取り上げられているように、現在3600種以上と言われています。そして、この絶滅危惧種が増加した原因は、私たち人間の経済活動や安易な行動にあるのです。

一つの生物が絶滅することによって、それを食べる生物も同じ道をたどり、結果として多くの生物が地球上から姿を消してしまう。私たち人間に与える影響も計り知れないものがあります。今や「少しくらいいなくなっても、自分には関係ない。」では済まされない、世界的に問題視されている重要な課題なのです。

しかし、絶滅危惧種の保全活動の知名度や認知度は依然低いままで。その要因として考えられるのは、限られた人たちだけの活動となってしまっていることや、時間と労力がかかる上、すぐには成果が見えず見返りもないことなどです。

私は、生物工学科の課題研究で植物分会に所属し、絶滅危惧種である「カワラノギク」の保全活動に取り組んでいます。カワラノギクは、関東地方の一部の河川敷にだけに生息する希少な野菊です。キク科の2年草で、栃木県の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。

私たちカワラノギク保全チームが管理している保全区は、宇都宮市側の鬼怒川河川敷10m×20mで、絶滅危惧種である貴重な蝶「シルビアシジミ」も生息している場所です。ここにカワラノギク保全区の看板を設置し、宇都宮市シルビアシジミ保全会や宇都宮市にご協力をいただきながら、特定外来植物の除草やカワラノギクの生育調査を行っています。

草丈が高く繁殖力の旺盛な特定外来植物を取り除いてきたことにより、カワラノギクだけではなく、シルビアシジミの食草であるミヤコグサやカワラハハコなども自生するようになり、少しづつではありますが、保全活動が前進していることを実感しています。

課題研究を通して、植物に対する興味や関心が一層深まり、絶滅危惧種を守りたいという思いが強くなりました。また、沢山の人に保全活動に参加していただくため、様々な媒体を活用し、私たちの活動を発信していきたいと考えています。

高校卒業後は専門学校に進学し、将来は植物に関わる仕事に就きたいと思います。

一つの生物でも、簡単に絶滅させてはいけません。

私たちひとりひとりの行動が「未来」に繋がるのです。

分類III類「ヒューマンサービス」 最優秀賞（要旨）

栃木県立矢板高等学校
農業経営科3年

やまうち まりん
山内 舞鈴

挑戦したことでできた夢



私は、花が大好きです。

幼い頃から動植物に興味があった私は、迷わず矢板高校に進学。授業では栽培管理の技術・知識を学ぶだけでなく、地域で栽培される草花や、花を用いた人の輪づくりにも興味を持ちました。

美しい花を見ると、どんな時もポジティブ思考！私は日々花に癒やされ、励まされながら、充実した高校生活を送ってきました。そして、高校2年の時にフラワーアレンジメントに挑戦することにしました。

フラワーアレンジメントの基礎は、地域の生花店主である根本先生から学びました。華道部に所属していたおかげか、「花の扱いが上手だね」と声をかけて頂いたことがとても嬉しかった一方、華道との生け方の違いや、バランス・空間の取り方の難しさに戸惑いました。

学校代表として参加した栃木県大会。指定花材は地元矢板市産のリンドウとスプレーマムだと知り、農家さんが一生懸命栽培している姿を思いつつ、リンドウの凜とした草姿や、スプレーマムの華やかさを活かすデザインを考え精一杯生けました。

最優秀賞として名前を呼ばれた時は本当に嬉しかったです。努力して良かったと心の底から思い、大きな達成感を得ました。また、練習最終日に根本先生から「勝ってらっしゃ！」と激励されたことを思い出し改めて心が震えました。

栃木県代表として参加した全国大会では、入賞するこはできませんでしたが、同じ花材を使用しても十人十色の作品が生まれる面白さに無限の可能性を感じることができ、私の夢が見つかりました。地域草花農家と消費者を繋ぐ花屋になるという夢です。

夢実現の第一歩は、生花店でのインターンシップです。お世話になったフローレンス花美さんは、「まちゼミ」と言って、様々な業種の店長さんが講師となり、地域の方々にプロのノウハウを活かした講座を開催する事業に参画しています。実際に参加させて頂き、地域に活力を与える、相乗効果のあるとても良いシステムだと感じました。

夢実現の第二歩は、学校のデュアルシステムを活用し、生花店花忠さんで切り花の水上げや花材のカットなどを1年間体験させて頂いていることです。

夢実現の第三歩目は、これまでの貴重な体験を活かし、卒業後に生花店に就職することです。

そして将来、「花でつなぐ町づくり」をテーマに、自分で経営する花屋を基点に、「まちゼミ」のようなフラワーアレンジメント講習会を通して、花のある生活、癒やしの空間を持続的に提供して行きたい。今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、今度は花を通じて、誰かを応援できる人に私はなりたいと思います。

栃木県学校農業クラブ連盟「とちのほそ道」 農業俳句コンクール 特選 受賞作品紹介

栃木県立宇都宮白楊高等学校
農業経営科 2年

かねこ かずや
金子 和哉



栃木県立鹿沼南高等学校
食料生産科 2年

こいけ きよみ
小池 清美



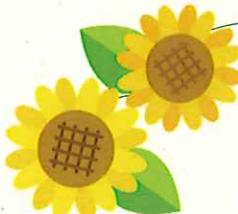
栃木県立矢板高等学校
農業経営科 3年

こばやし はるな
小林 遥奈



栃木県学校農業クラブ連盟「機関誌『とち』表紙図案コンクール」最優秀賞受賞作品紹介

栃木県立那須拓陽高等学校 たしろ あい
食品化学科 3年 田代 愛依



夏をテーマにしたかったので、
夏野菜を描きました。
暑い日に汗をかきながら収穫した時の
達成感・喜びが、少しでも伝われば
良いなと思います。（愛依）

